

統計データ分析結果(案)

令和4年3月16日

農林水産省

目 次

1. 統計データ分析の概要	1
2. 統計データ分析結果	2
(1) 資源と環境(地域資源の適切な保全管理)	2
(2) 社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)	4
(3) 経済(構造改革の後押し等地域農業への貢献)	6

1. 統計データ分析の概要

(1) 統計データ分析の目的

多面的機能支払に取り組む地域の状況を評価するため、既存の統計データを、市町村単位の多面的機能支払のカバー率※(以下、「カバー率」という。)別に整理し、地域資源の適切な保全管理や農村の地域コミュニティの維持・強化、構造改革の後押し等地域農業への貢献の状況を分析する。

(2) 分析内容

農林業センサスを活用し、以下のデータ項目と多面的機能支払の取組との関係について分析。

【分析で使ったデータ】

- ・農林業センサス(2010年(平成22年)、2015年(平成27年)、2020年(令和2年))
- ・多面的機能支払カバー率(2019年度(令和元年度)実績)

【分析に使用したデータ項目】

- ・経営耕地面積、経営耕地面積規模別面積
- ・農地、農業用排水路等の地域資源を保全している農業集落数
- ・寄り合いの開催回数別農業集落数、地域活動の実施状況別農業集落数
- ・販売目的作付面積、集落営農組織への参加状況

※ カバー率:農用地面積に対する認定農用地面積の比率

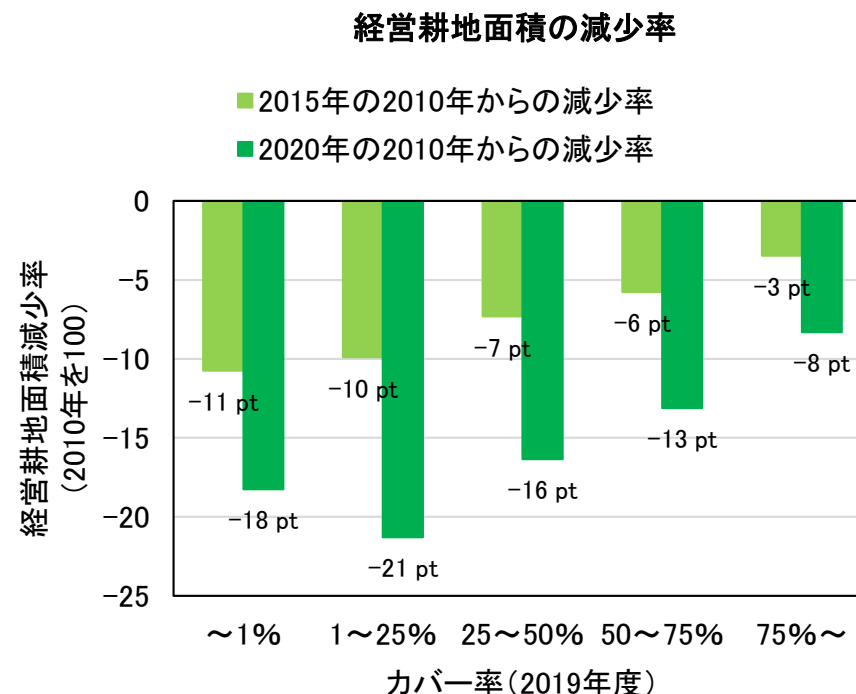
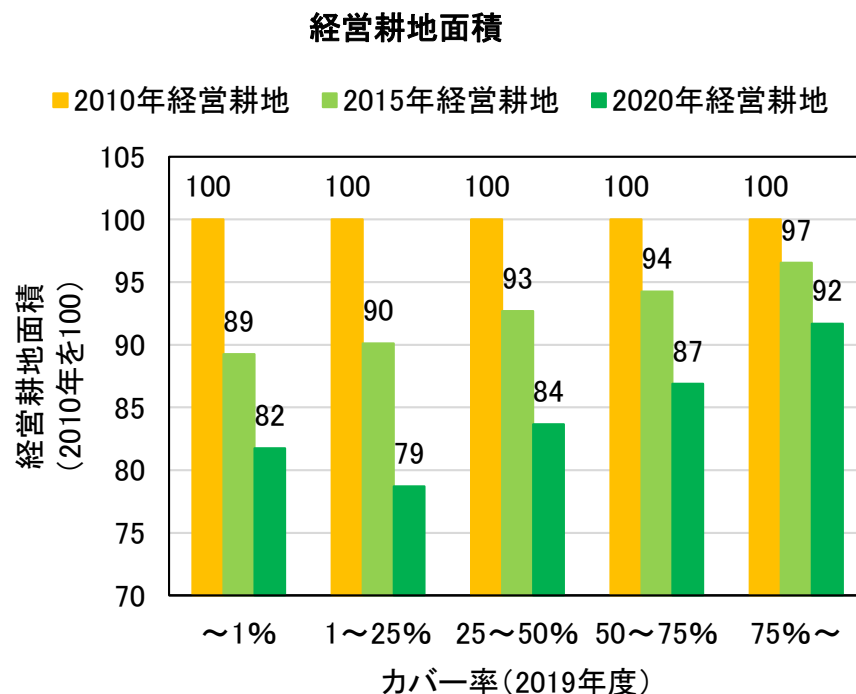
2. 統計データ分析結果

(1) 資源と環境(地域資源の適切な保全管理)

1) 遊休農地の発生防止・抑制

○ 2019年度(令和元年度)の市町村単位のカバー率と農林業センサスにおける経営耕地面積の関係をみると、経営耕地面積は2010年から年々減少しているものの、カバー率が高い市町村では経営耕地面積の減少率が小さい傾向が見られる。

経営耕地面積と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係



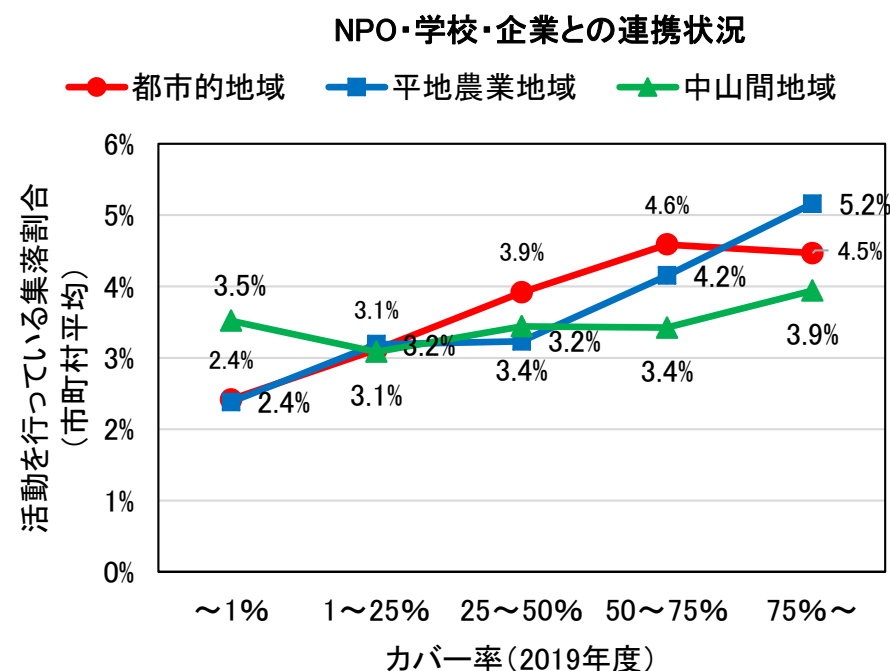
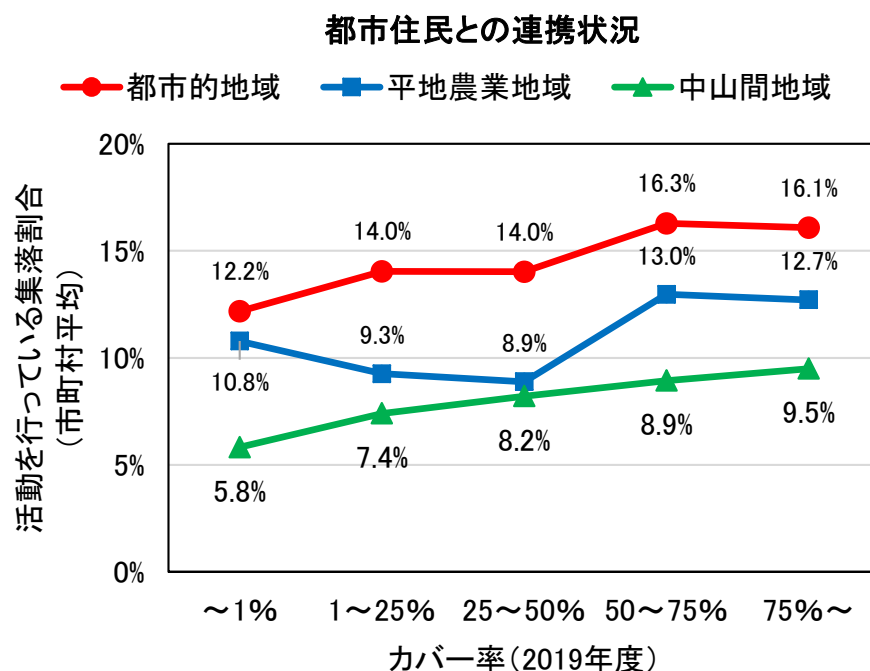
※ 左図は、2010年における経営耕地面積を100とした2015年及び2020年の経営耕地面積の割合を、各カバー率の範囲に該当する市町村の平均値で示したものの。

※ 右図は、2010年からの減少率を示したものである。

(1) 資源と環境(地域資源の適切な保全管理) 2) 地域資源の保全管理

○ 地域資源(農地、農業用排水路等)の保全活動について、①都市住民と連携して保全している農業集落の割合、②NPO・学校・企業と連携して保全している農業集落の割合をみると、農業地域類型間で差があるが、カバー率が高い市町村では都市住民、あるいはNPO・学校・企業と連携して保全している農業集落の割合が高い傾向が見られる。

地域資源(農地、農業用排水路等)の保全活動と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

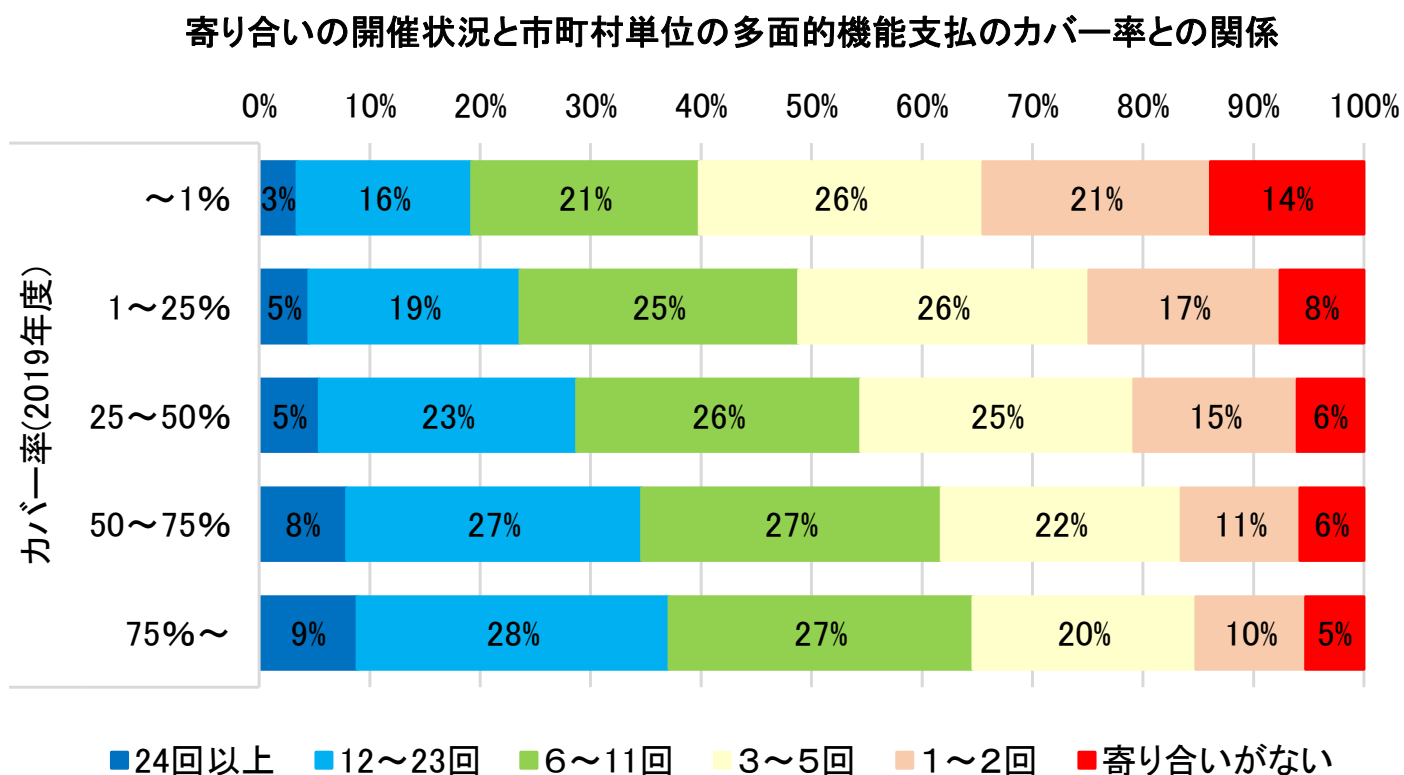


※ 農業地域類型は平成29年改訂版を使用。

(2) 社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)

1) 集落内の寄り合い回数

○ 農業集落内での寄り合いの開催状況を見ると、カバー率が高い市町村では、開催回数が多い集落の割合が高い傾向が見られる。



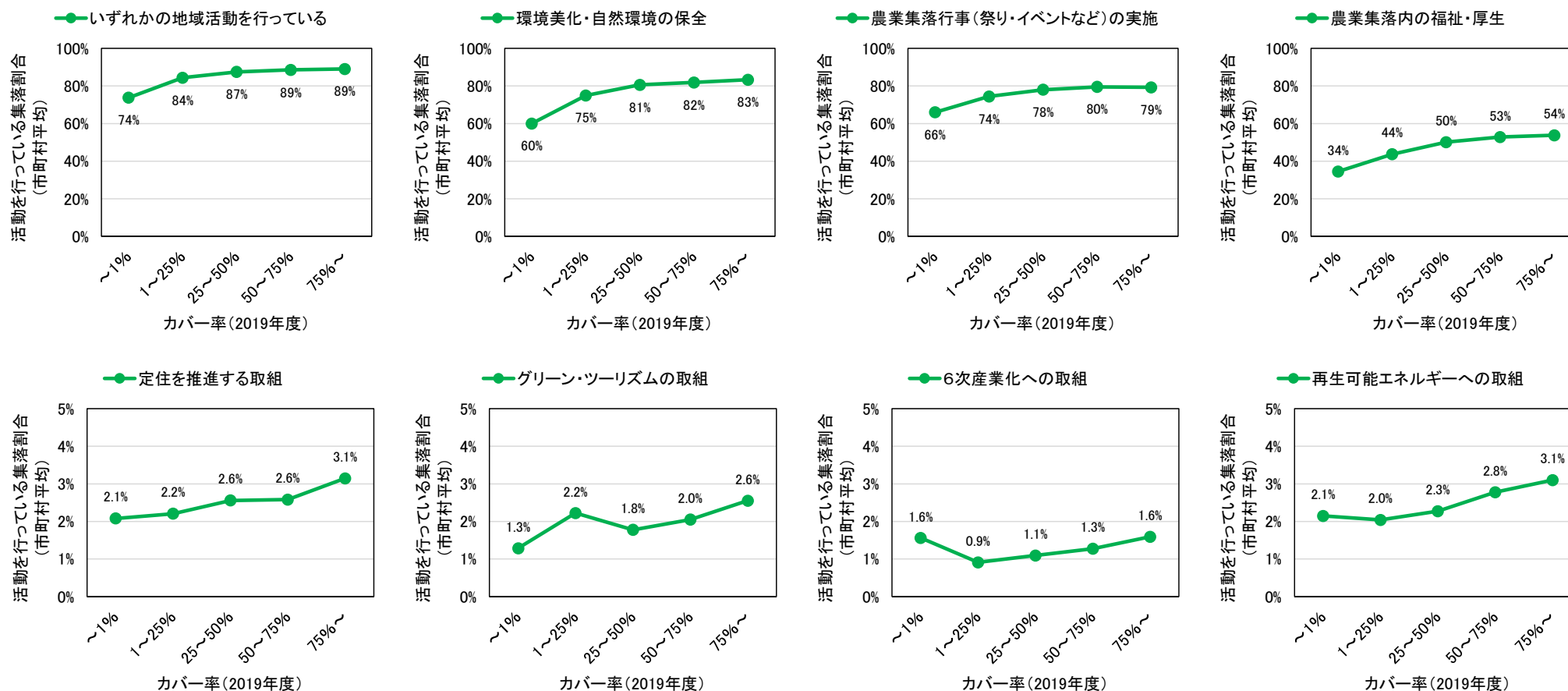
※ 各カバー率の範囲に該当する市町村の平均値を示したものの。

(2) 社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)

2) 地域活動の実施状況

○ 2020年農林業センサスにおける農業集落内での地域活動の実施状況を見ると、活動内容により実施している農業集落割合の水準は異なるが、カバー率が高い市町村では、活動を実施している農業集落の割合が高い傾向が見られる。

地域活動の実施状況と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係



※ 各カバー率の範囲に該当する市町村の平均値を示したもの。

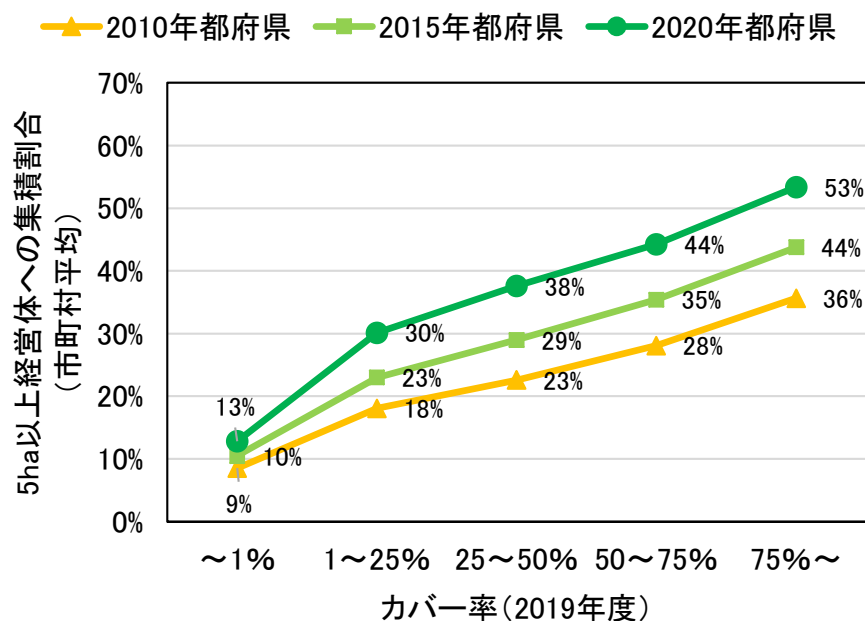
(3) 経済(構造改革の後押し等)地域農業への貢献

1) 農地利用集積状況

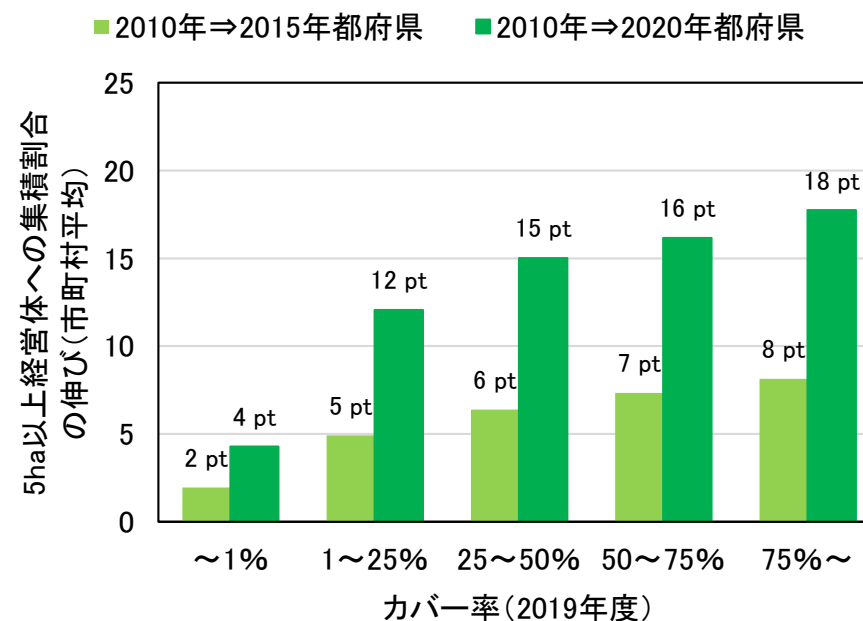
- 都府県を対象に、農林業センサスに基づく市町村別の集積割合※を算出し、市町村単位のカバー率の階層別で平均した結果、カバー率が高い市町村ほど集積割合が高い。
- また、集積割合の2010年から2015年及び2020年への伸びについても、市町村単位のカバー率が高いほど大きい。

農地利用集積割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

集積割合



集積割合の伸び



※ 集積割合＝

経営耕地面積が5ha以上である農業経営体の耕地面積の合計

全ての農業経営体の経営耕地面積の合計

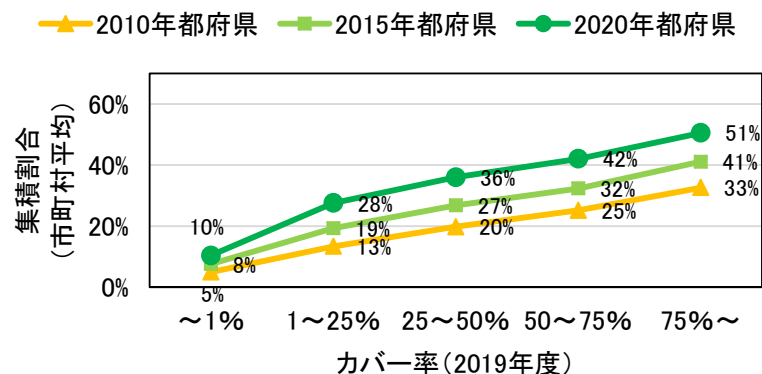
(3) 経済(構造改革の後押し等)地域農業への貢献

1) 農地利用集積状況(農業地域類型別)

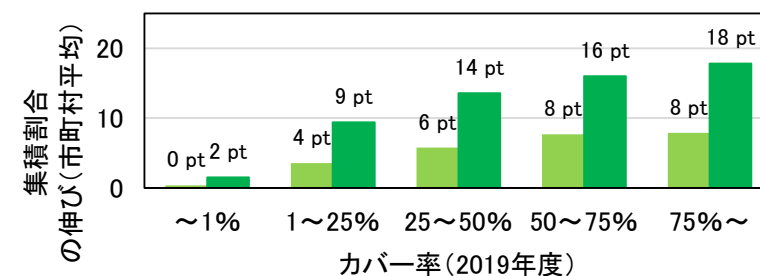
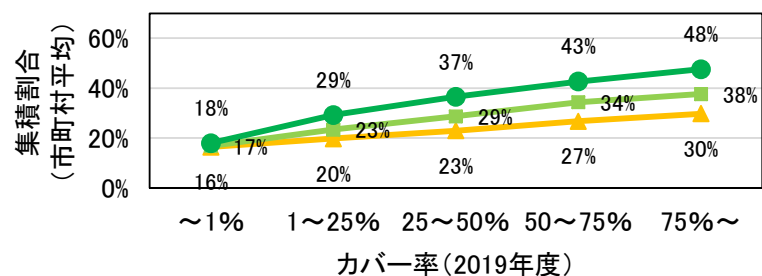
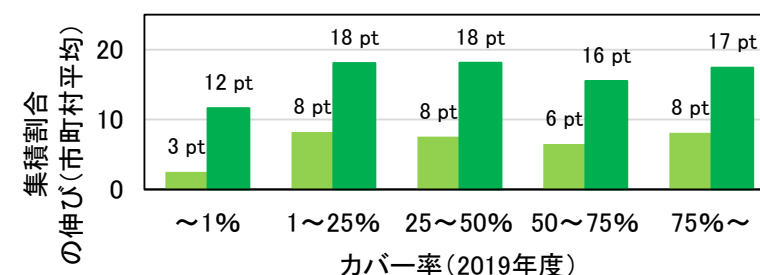
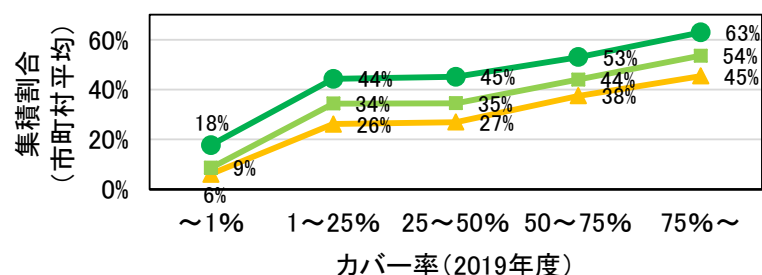
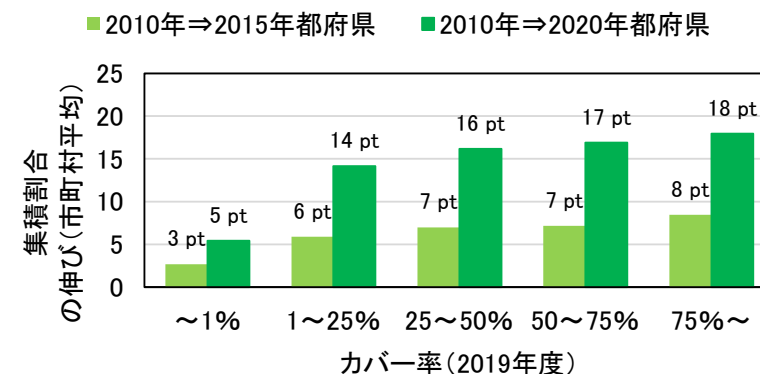
- 農業地域類型別に市町村単位のカバー率と都府県における集積状況を整理すると、農業地域類型間で差があるが、カバー率が高い市町村では集積割合が高い傾向がみられる。
- また、集積割合の2010年から2015年及び2020年への伸びについても、市町村単位のカバー率が高いほど大きい。

農地利用集積割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

集積割合



集積割合の伸び



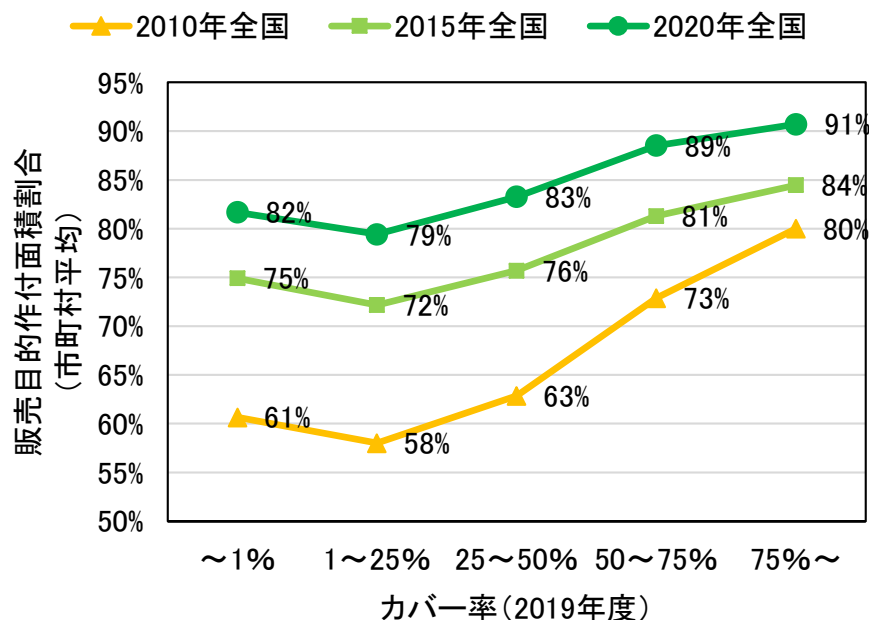
(3) 経済(構造改革の後押し等)地域農業への貢献)

2) 販売目的作付面積割合

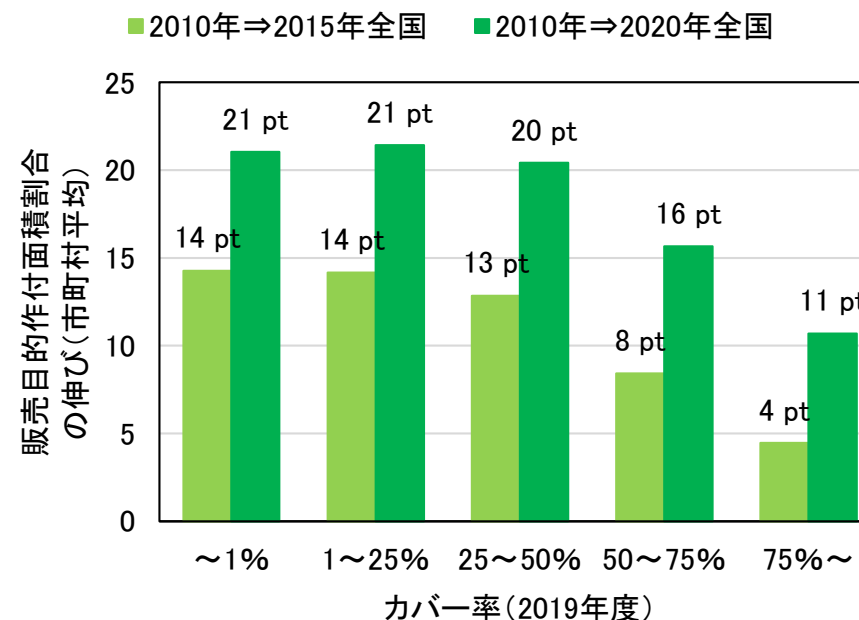
- 市町村単位のカバー率と農林業センサスにおける販売目的作付面積の経営耕地面積に占める割合の関係をみると、市町村単位のカバー率が高い市町村では販売目的作付面積割合が高い傾向が見られる。
- 一方、販売目的作付面積の経営耕地面積に占める割合の2010年から2015年及び2020年の経年変化をみると、市町村単位のカバー率が高いと伸びは小さい。

販売目的作付面積割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

販売目的作付面積割合



販売目的作付面積割合の伸び



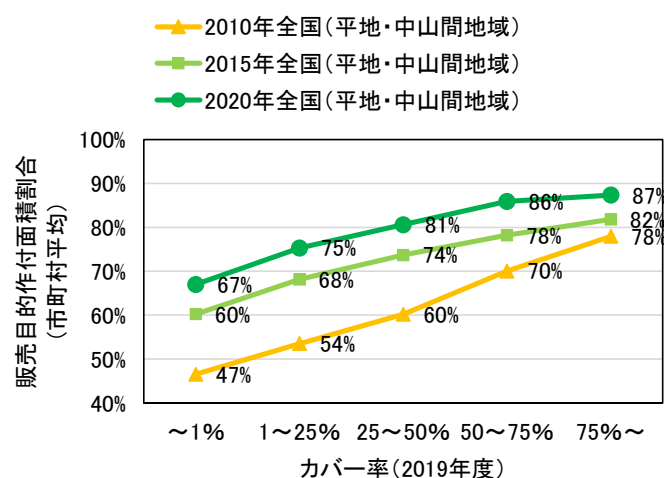
(3) 経済(構造改革の後押し等)地域農業への貢献

2) 販売目的作付面積割合(参考)

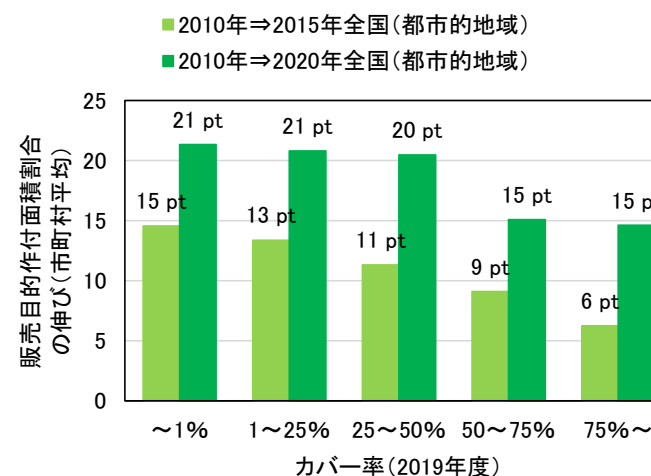
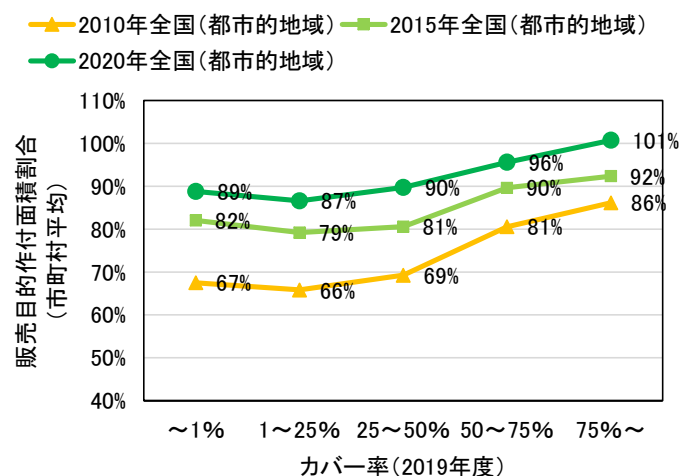
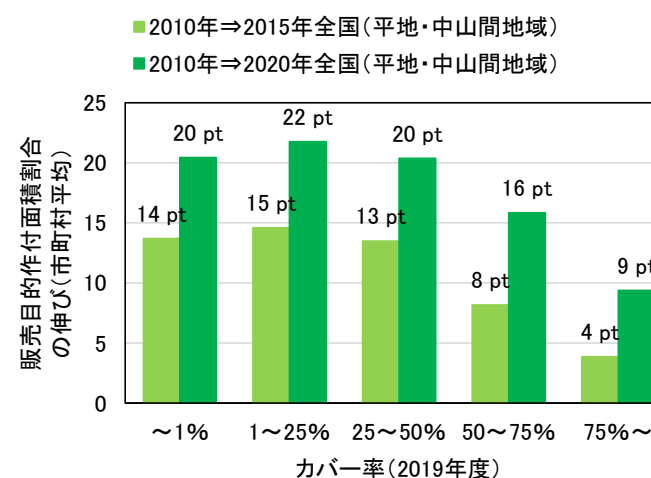
○ 前頁では、市町村単位のカバー率(～1%)と市町村単位のカバー率(1～25%)で、傾向が逆転していたが、平地・中山間地域を抽出すると、その傾向は認められなくなる。

販売目的作付面積割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

販売目的作付面積割合



販売目的作付面積割合の伸び



(3) 経済(構造改革の後押し等)地域農業への貢献

3) 集落営農組織の状況

- 市町村単位のカバー率と集落営農組織に参加する個人経営体割合の関係をみると、農業地域類型間で差があるが、カバー率が高い市町村では集落営農組織に参加する個人経営体の割合が高い傾向が見られる。

集落営農組織に参加する個人経営体割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

